



世界バラ会議

「世界バラ会議大阪大会2006」は5月11日から17日まで、大阪市内で開催される。「バラ会議」は3年に1度開催されており、アジアでは初めて。水の館ホール(大阪市鶴見区・花博記念公園鶴見緑地内)では12日から3日間、「ばらフェスタ大阪」が開かれ、サントリーが開発した青いバラも展示される。

●問い合わせ 世界バラ会議大阪大会2006実行組織事務局
Tel:06-6631-8760 <http://www.worldrose-osaka2006.jp>

美しい大阪をつくる100万本のバラの会

世界バラ会議の機運を持続的なまちづくりにつなげようと、1人100円で、できるだけ多くの人(100万人)に募金を呼びかける。募金期間は2009年3月まで。事業計画によると、駅ターミナルや川沿いにシンボリックなバラの拠点を作り、「バラの大阪」という新たなブランドイメージを発信する。区役所前など市民の目に触れる場所にバラの苗を植えつけるほか、ホテルや商店街などにバラの飾り付けやイベントの協力を求めていく。春にはローズウィークを設け、品評会などのイベントをする。



●問い合わせ
美しい大阪をつくる100万本のバラの会 Tel:06-6632-8714
http://www.ocpa.or.jp/osakapark/100_rose/index.html

発足記念イベント開催!

「美しい大阪をつくる100万本のバラの会」の発足を記念し、市民運動の機運を一層盛り上げるために開催。

【日時】4月18日(火) 午後6時~午後7時30分
【会場】大阪市中央公会堂 【参加】先着1,000人/入場無料
【内容】浜村淳さんの司会で、宝塚歌劇団花組の扇めぐむさん、澤乃せいらさんほかによる楽しいトーク。「青いバラ開発物語」や、大阪すみよし少年少女合唱団のコーラスなど。

●問い合わせ (財)大阪21世紀協会 Tel:06-6942-2009
http://www.ocpa.or.jp/osakapark/100_rose/event.html

BRAND NEW OSAKA
大阪に吹く新しい風

大阪に吹く新しい風
行政・経済団体・大学などが協力して設立した大阪ブランドコミッティが進めている「大阪ブランド戦略」。

大阪ブランドのイメージ向上と再生をめざして、歴史・産業・文化・技術・人材などさまざまな分野の大阪の強みや魅力を発掘し、戦略的に情報発信しています。

【どっこい大阪・なかなか大阪】
-大阪の上昇気流を発信中-
大阪ブランド情報局
<http://www.osaka-brand.jp>

大阪をバラであふれるまちに 美しい大阪をつくる 100万本のバラの会、始動



バラを愛する心を育み、美しい大阪を発信しようと、「美しい大阪をつくる100万本のバラの会」が動き出した。「1人100円」で、バラいっぱいのおまちを実現する。実行委員長の寺田千代乃さんと、実行委員で環境デザイナーの二見英美己さん、大阪21世紀協会の堀井良殷理事長が、「バラと大阪」の夢を話し合った。

堀井 アジアで初めての世界バラ会議が5月、大阪で開かれます。この機会に、バラをまちづくりに生かす運動をスタートしました。

1人でも多くの人に100円ずつ寄付してもらって、市民の手でバラを植える。大川の岸辺にバラの見えるスポットや、バラのトンネルを作りたい。ローズ・オオサカという品種を、シンボル植樹する案も出ています。

寺田 ここ数年バラブームですが、枝垂れ桜に比肩して、バラも季節ごとにごくきれいな水辺と良く合うので、目につくところに、水とバラの風景を作り出せば、魅力をアピールできるでしょう。まずは、「みんなで作ったのはこのバラなんだ」というシンボリックな場所を、考える必要があります。

大阪って自虐的とよく言われますが、情

報発信が下手ですね。大阪にバラは似合わない……とか。民意でやろうという風土はあるのだから、大阪の良いところを認めて、生かす方法を考えればいい。私も庭にバラを植えていますが、ちゃんと花をつけるのを見れば、愛着もわきます。

二見 大阪は水の都・運河のまちなのに、その魅力を生かしきれいでいません。水辺を再生して市民が誇れる大阪にしたいですね。バラは四季咲きも多く、長く咲く品種を組み合わせれば、桜の後、5、6月かなりの期間、楽しむことができます。手入れの簡単なつるバラを植えるなどしてはいかがでしょうか。「まちをきれいにしよう」と呼びかければ、みなさん喜んで参加して下さると思うんです。

堀井 桜も文化ですが、バラも文化と密着しています。イギリス王室の歴史に「バラ戦争」があり、シェークスピアの物語や詩には、バラにまつわる場面が50か所以上ある。「百万本のバラ」から「野ばら」まで、バラの歌も数多い。食用のバラもあるそうですね。

二見 ローズヒップ(バラの種子)のお茶はビタミンCが多くて健康にいいものです。バラはいろんな意味で奥が深いからこそ発展性があり、生活に入り込んでいく楽しさがあります。

堀井 植えて楽しみ、見て楽しみ、飾って楽しむ。もう一つ、人にプレゼントしてお互い幸せになる。バラは日本でも古く、万葉集にも詠われているそうですね。

二見 ハマナスは日本原種のバラですし、サンショウバラもそう。中国から伝わったモッコウバラは、とげがなく、品のある香りで、手入れも簡単です。日本伝統の房咲きのバラが西洋に伝わり改良されてポンポン咲きのバラになったという経緯もあり、欧州に影響を与えています。こういう文化交流は素晴らしいことです。

寺田 洋のイメージがありますが、和と合う。奈良の靈山寺はバラで有名ですね。

堀井 4月18日、中央公会堂での発足記念イベントで、世界で初めて青いバラを開発したサントリーに、開発秘話を紹介してもらおう予定です。大阪の最新のバイオ科学がバラの文化と結びついて、新たな商品を生み出しつつある。この機会に、バラの苗や切り花の販売、バラ農家育成など、産業としてのバラも盛んにし、バラを楽しむと同時にバラを生み出す都市、というブランドイメージを作っていきたい。

二見 英美己

(ふたみ えみこ)

環境デザイナー
「美しい大阪をつくる100万本のバラの会」実行委員



Emiko Futami

堀井 良殷

(ほりい よしたね)

財団法人大阪21世紀協会 理事長
「美しい大阪をつくる100万本のバラの会」実行委員会 副委員長



Yoshitane Horii



Chiyono Terada

寺田 千代乃

(てらだ ちよの)

大阪ブランドコミッティ組織委員会 委員
「美しい大阪をつくる100万本のバラの会」実行委員会 委員長

寺田 日本で「ここがバラの産地」というのは、特になんもないじゃないですか。チャンスはあるということです。

二見 「環境教育」として、子供たちにも土いじりの楽しさを知ってもらいたい。園芸ファンのすそ野が広がっており、潜在的関心は高いので、この活動に火がついたらすごいことになるでしょう。

寺田 花と緑を愛し、自然との共生に生きがいを求める市民の幅広い運動を期待したいですね。